

地域活動職員の谷口です。

大原の皆様、こんにちは。私が原稿を書いている3月中旬時点ではまだ春は遠く、ときどき冬用コートの出番もあるような気候ですが、このニュースレターが皆様の元に届くころには、桜の花も見ごろを迎えているかと思います。大原にもたくさんの桜の名所があると聞いていますので、今から楽しみにしています。

さて、今回は地域活動職員としての研修期間を終えたお礼と振り返りを・・・と思っていたのですが、私の提案した自治振興会の新規プロジェクトについて「とりあえずやってみよう」とGOサインをいただけたので、研修としては終わりですが、個人的に次年度以降も引き続き一緒に活動させていただけることになりました。プロジェクトのテーマは「パブリックハック」です（詳しくは大原自治振興会のyoutubeチャンネルにアップされている第27回勉強会の動画をご覧ください）。

このとりあえずやってみようというフットワークの軽さと、地域住民が本当に課題と感じていることを住民アンケートや勉強会を通じて丁寧に拾い上げて事業に反映させていくという仕組みが両立していることが、大原自治振興会の活力につながっているのではないかと思います。

この1年間、特等席から学ばせていただきインプットしたことを、今後の仕事や今住んでいる地域、そしてなによりお世話になった大原の皆様に還元していきたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。



地域活動職員の中井です。

大原の皆さま、こんにちは。今回は、地域活動職員研修を終えての「つづやき」となります。今回は、大原自治振興会の熱心な活動ぶりについて、そのパワーの源はどこから来るのだろうかという振り返りを行いました。

そもそも自治振興会の大きな役割は、地域のもつ強みを生かして、地域にある弱さを助け合い、一人ひとりがしあわせを感じるまちを創っていくことだと思います。確かに、自分のためと言うよりは、地域のため、他の誰かのために奮闘される姿を、この研修を通して随分と見てきました。

毎月の運営会議では、これから先の大原を見据えて「若い人にもっと参加してもらわねば…」といった声があがります。そうすると、どうすればよいかと議論が始まるのですが、なかなか決着はつきません。それでも、ぼんやりと「地域の中に、生きづらさを感じている人がいれば、他人ごとではなく、自分ごととして考えられることが大切」といったところに着地する雰囲気があります。

そう考えますと、大原自治振興会には、「他者を自分として気づかう想像力」が豊かな人がたくさんおられ、それが熱心な活動につながっているのだと思います。

さらに深めて、どうして、「他者を自分として気づかう想像力」が豊かなのでしょうか？ この1年で見えてきたことがあります。それは、一人ひとりが多様なかたちで、人の弱さを知っている、またそのような経験があるからではないでしょうか。

大原自治振興会の門戸は開かれていますので、誰でもが多様に参加できます。ただ、参加者募集について、警沢にも要件を加えるとすれば、人（自分を含め）の弱さを知っている方こそ、大歓迎といえるかもしれません。

最後となりましたが、この地域活動研修において、興味のおもむくままに参加することを寛容に受けとめていただき、本当に感謝しております。

大原の皆さま、ありがとうございました。



Content

- 02 プロジェクト、部会、関連組織の取り組み
- 04 大原地域のまちづくりに関するアンケート結果 概要報告
- 08 地域活動職員のつづやき



発行・問合せ：大原自治振興会
〒520-3435 甲賀市甲賀町相模173-1
TEL&FAX:0748-88-3111
e-mail: oohara10ku@gmail.com
編集：大原自治振興会 広報プロジェクト
発行月：2022年（令和4年）4月

【編集後記】

2022年度の始まりです。新型コロナウイルスの終息が見通せない中でも、まちづくり活動が維持・継続されるよう、新型コロナウイルスの感染を正しく恐れながら、「集まれる」ようにしたり、また、オンラインの活用等に効率的な方向に変革していく視点を全ての取り組みに取り入れていきます。



大原小学校6年生卒業記念植樹・木工制作【2022.3.4】

百年先を生きるために今日を生きる

～“おおはら”に根づく伝統行事・127回目の大原小学校卒業記念植樹～

3月5日は大原小学校6年生卒業記念植樹・木工制作。

明治29年3月から続いている127回目の大原小学校6年生卒業記念植樹を、春の訪れを感じるようなお天気の中、大原共有山財産区、甲賀木の駅、大原小学校PTA役員、自治振興会とが協働で支援しました。

大原には「百年先を生きるために今日を生きる」という教訓が伝えられています。ふるさとの山を守り、ふるさとを潤すために、将来を見据えた大原学区の人々の知恵と力の結集から生まれた言葉です。

今年の卒業生38名が、ヒノキの木の苗300本を、一本一本丁寧に植えました。子どもたちが20歳になる頃には植樹した木は子どもたちの背丈くらいになるでしょう。

植樹後は、学校に戻り、地元の木を使った卒業制作（小物入れ）の仕上げの作業の支援を、甲賀愛林クラブ、自治振興会とが協働で行いました。世界にたったひとつの素敵な作品ができました。

木の良さや温かさにふれ、大原の伝統を肌で感じてくれたかと思っています。



中段、下段
大原小学校HPより

2021年度 第3回里山円卓会議【2022.3.3】



左 3月3日里山円卓会議
右 11月28日山でつながる一日

3月3日は、2021年度 第3回里山円卓会議 「やまの健康」推進事業について検討しました。

滋賀県では、住民自らが地域の周辺環境や地域に必要な暮らしの基盤等を振り返って見つめ直し、農地や森林等の維持保全の方法や、地域経済の活性化につながる地域資源などについて検討することにより、中山間地域の活性化を図ることを目的として、「やまの健康」推進事業を実施しています。

大原地域では自治振興会が主体となり、2020年度モデル地域に採択され、2021年度、2022年度と活動を行います。今日は次の4つアクションの2021年度の実行状況と2022年度の取組み予定の共有です。

- 1) やまの境界を明確化する取組
- 2) やまを見直すきっかけづくり
- 3) やまと楽しみながらつながる取組
- 4) やまの恵みを循環させる取組

円卓会議のメンバーは、コーディネーターは株式会社ファルテ森林技術経営研究所、会議メンバーは、大原自治振興会（地域環境部、若者PJ、運営委員会など）、甲賀市大原共有林財産区、甲賀木の駅運営委員会、甲賀愛林クラブ、森林組合、SATOYAMA+、立命館大学、県市の担当課です。

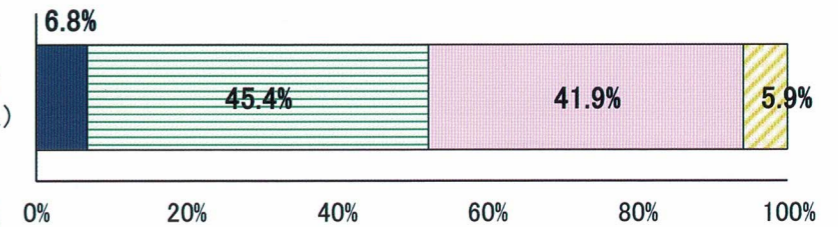
- 1) やまの境界を明確化する取組は、大久保、樺野地区にモデルエリアを設定して、説明会、現地調査を行いました。
- 2) やまを見直すきっかけづくりでは、11月28日に「山でつながる一日」を開催して、13組の野外ライブ、樺野川砂防ダム湖周辺のトレッキングを実施。約90人の参加がありました。
- 3) やまと楽しみながらつながる取組では、にこにこ園の園児を対象に、周辺の里山への案内を実施しました。
- 4) やまの恵みを循環させる取組では、甲賀木の駅が間伐の継続、薪生産の拡大及び生産拠点の充実を図りました。

自治振興会の認知度

Q. 自治振興会では、様々な活動を行っています。どのような活動を行っているかご存知ですか。

自治振興会を知っている人は約5割。

回答者
(2,421人)



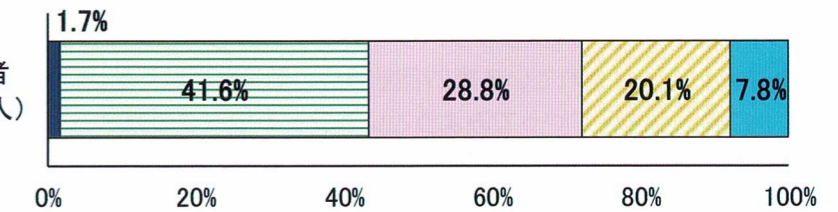
- 知っている
- 知らない
- ▨ おおむね知っている
- ▩ 無回答

自治振興会への参加意向

Q. 自分たちの地域を自分たちでよくしていく大原自治振興会のまちづくり活動に、今後、参加したいですか。

自治振興会の活動に、今後、参加したい人は約4割。

回答者
(2,421人)



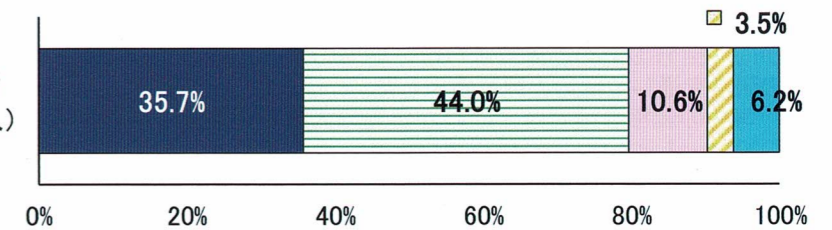
- 積極的に参加したい
- ▨ 時間があれば参加したい
- どちらかといえば参加したくない
- ▩ 参加したくない
- 無回答

今後の居住意向

Q. お住いの地域に今後も住み続けたいと思いますか。

今後も住みたいと思っている人は約8割。

回答者
(2,421人)

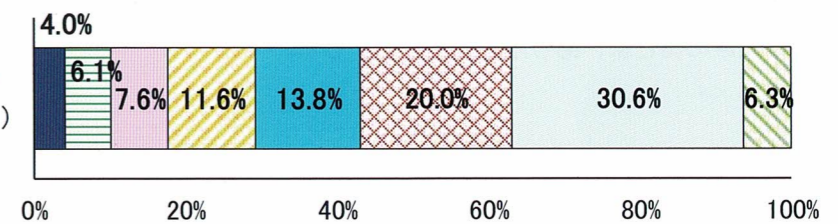


- ずっと住みたい
- ▨ 当面は住みたい
- できるなら転居したい
- ▩ 転居したい
- 無回答

回答者の年齢

回答者の約5割は60代以上。

回答者
(2,421人)



- 10代
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- ▨ 60代
- 70歳以上
- ▩ 無回答